



森の中の高知駅



高知を愛する皆様へ (31年4月号)

平成31年4月1日

彼岸が去ってもうお花見の候ですね。「桜が無ければ心静かに過ごせるのになあ」と昔の人が歌に詠んだ気持ちが解るような気がします。さて、まずは今月の活動のご案内です。

4月7日(日)

09:30~11:00 南口電停脇の「みんなの庭」の草取り。(気温が上って作業が楽になりましたが、雑草の勢いも盛んです。)

14:30~15:30 中央公園前の帯屋町筋で、葛岡さんによるギターライブの傍らチラシを配ります。

<5月の共同活動は12日(日)、6月は9日(日)の予定です>

3月のトピックス

○17日(日)午前、「みんなの庭」の手入れを行いました(写真下左)。6人がかりでしたので捗りました。土との相性が良いのか、日射しを浴びてノースポールの白い花が咲き誇っています(写真中央)。

午後の帯屋町は人出が増し、ギターの弾き語りに乗ってのチラシ配りが快調でした(写真右端)。いったん通り過ぎてから引き返して来て「いいことですね、頑張ってください」と温かい声をかけてくださる方もおられ、励まされました。

翌日の午前、有志の手で北口駐輪場の植栽の草取りもされ、すっかりきれいになりました。



(次ページに続く)

駅前緑化活動はご賛同の方々のご厚志で維持されております。引き続き皆様のお力添え(花苗持ち寄り、勤労奉仕、ご寄付など)をお願い申し上げます。

♥森の中の高知駅♥

幹事連絡先：〒780-0042 高知市洞ヶ島町1-11

中田昌志 携帯電話：090-8849-3651 E-mail：m.nakata@ak.wakwak.com

公文敏雄 携帯電話：090-7016-3743 E-mail：kumont2@yahoo.co.jp

ホームページ：<http://mori-kochi-ekijimdo.com/>

取引銀行：四国銀行よさこい咲都支店「森の中の高知駅 代表中田昌志」ナカタマサン名義 普通 0709695

「緑のまちづくり」を考える（29）

その名も渋谷ストリーム

— 「東京砂漠」に「春の小川」が復活？



(イメージ図)



1956年当時の河骨川（渋谷区郷土博物館・文学館展示）



広場から渋谷川を臨む(上の赤丸、2019年3月)

皆に親しまれている唱歌「春の小川」が世に出たのは大正時代です。そのモデルとされている東京渋谷の河骨川（写真上左、渋谷川に注ぐ）は、メダカやコブナが泳ぐせせらぎでしたが、都市化の進行でやがて汚い下水路に変貌、東京オリンピック（1964年）の頃にはコンクリートで蓋をした暗渠となり、地上から姿を消してしまいます。やがて「ビルの谷間の 川が流れない・・・この東京砂漠」という歌（内山田洋とクールファイブ）が大ヒットしました（1976年）。

「都市の中小河川を下水道とし、蓋をして用地として有効活用しよう」という高度成長時代の思想に漸く転機が訪れたのは、経済成長・経済効率が幸せをもたらすという神話が疑われだした今世紀初頭です。「渋谷に春の小川を」という合言葉が拡がり、地域NPOが立ちあがり、イベントが相次ぎました。

その成果の一つが、東急電鉄などが東京都に提案し、2013年都が都市計画決定した渋谷駅周辺の再開発事業です。5年経った昨年9月、南街区に渋谷川の一部が姿を現わしました。谷底と言う地形の制約で残念ながら護岸・河底の3面がコンクリートですが、両岸に滝のように再生水を伝わして水量を補う工夫もみられます（写真上右）。駅に直結する商業ビル（ホテル、レストラン、オフィス）に隣接し、広場と遊歩道のある水辺空間「渋谷ストリーム」の完成で、河も人も流れる場所になったかどうか、機会がありましたらぜひ訪ねてみてください。

「西敷地」は広場の最適地かも

東側に新図書館、西側にひろめ市場、南北を帯屋町筋と大手筋にはさまれた「西敷地」は、「渋谷ストリーム」と環境がそっくり、いやそれ以上かもしれません。

木を植え、草地をつくり、水辺（せせらぎ）と遊歩道を配してみましよう。梶原村からカヤ草きの茶堂を借りてきて龍馬を坐らせてもいい（インスタ映え疑いなし）。ありきたりの公園づくりから発想を転換、まち中の目玉としてデザインすることで、市民や観光客から親しまれる、見違えるような賑わい空間を創ることができるでしょう。

「人と自然との共存」こそ、これからの街づくり（アーバン・デザイン）に欠かせない哲学だと、時代が教えてくれています。